

1. 総括

近年日本列島で多くの自然災害が発生し、昨年も地震や台風、豪雨等で甚大な被害が生じている。かすみ会においても平成30年度は、台風21号の影響等あらためて災害対策を見直す年となり、対策を進めてきた。今後ともさらなる対策の充実を図っていきたい。

また、特に入所施設を中心にインフルエンザ等の感染症も大きく運営に影響することとなった。利用者及び職員の健康管理についてさらなる対策を図っていきたい。

人材難という状況に対し、様々な方策を行ったが、社会福祉法人として、今後も魅力ある法人づくりを行い、人材の確保と育成に取り組んでいきたい。

平成30年度も、生活環境への奉仕作業や行事等への応援など多くのボランティアの方にかかわっていただいている。温かい応援に感謝申し上げ、社会福祉法人として今後、地域における公益的な取り組みを実践し地域に求められる法人となる中で、共生社会の実現を目指す。

2. 事業の総括

(1) かすみ会まつりの実施（平成30年6月2日）

地域の方との交流事業として、イベント、模擬店、ギャラリー展示、後援会主催のバザーなど各種催しを行い、地域住民の方々等多数お越しいただいた。後援会の協力も頂き地域へ広報活動を継続する中で、かすみ会の地域への認知度は高まってきたと感じる。かすみ会まつりを通じて障害のある方への理解を促進し、また地域住民の方々との交流を深める中で地域の福祉課題を把握し、さらなる地域貢献を果たせるよう取り組む。

(2) 社会福祉法人新制度の本格実施に係る対応状況

①情報発信

- ・広報委員会を開催し、広報誌かすみ会だより（春、夏、秋冬合併号）を発行。
- ・ホームページ、ブログ等のネットワークを活用し、情報発信を行った。

②地域における公益的取り組みの推進

- ・施設実習の受け入れ等の地域の福祉人材の養成
- ・障害者への理解促進のための見学、学習機会の提供
(地元小学校、地域民生委員児童委員協議会の見学受入れ)
- ・地域における人権学習の実施
(地元保育園への人権研修)
- ・交流施設こもれば、グランドの地域開放

(3) 人材の育成と虐待防止

①理念、倫理綱領、職員行動規範の再徹底

法人理念唱和を継続、NHKの特集番組「この子らを世の光に～共に生きる社会を目指して」を新人研修で視聴するなど理念のより深い理解と浸透を図った。

②個別支援計画を大切にした取り組みの強化

各事業所個別支援計画を大切にするため、利用者理解に努めた。

③外部研修・見学の実施

- (i) 虐待防止の見識を深めるための研修参加
- (ii) 専門性、支援技術向上の研修参加

その他、各事業所による同業他社の見学により、気づき、振り返りの機会を持つ。

④新人研修における虐待防止の徹底

新人研修やフォローアップ研修により、虐待防止に関する基本的な理解と実際の支援場面での対応を徹底した。

⑤虐待防止委員会の開催（2回）

「職員その他施設の見学を行っているのは良いことなので継続して、さらにつながりをつくってほしい。」という意見があった。また、ショートステイ利用者家族からの相談事案にたいし、調査の結果虐待の事実はなかったが、虐待防止委員会の意見を受け、夜間の勤務を手厚くする等より安心できる支援体制の構築を進めた。

⑥虐待防止役職員研修の実施（5月14日）同日同内容2回の講義。

アンガーマネジメント（怒りの感情と付き合う方法）をテーマに実施。

「福祉現場におけるアンガーマネジメント～自分の感情と上手に付き合おう～」

井上 泰世（いのうえ やすよ）氏 株式会社ナースハート代表取締役

職員からは、自分の「べき」に気付き、怒りの感情をやり過ぎず方法を学べて良かったとのこと。また職員同士共通の講義を受けることでそこで使われる言葉の共有ができたことが大きかった。

(4) 防災関係

台風21号の影響で4時間にわたる停電があり、その経験を活かし対応を検討した。

・防災計画委員会を2回（9月19日、12月18日）開催し、彦根市危機管理室から防災士、笠原恒夫様のお話を伺うとともに、防災対策についてご意見を伺った。

・さらに防災関係検討会議を開催（9月27日、10月31日11月28日）し、対応策を検討し防災計画委員会に提案した。避難場所の確認と停電時の発電等の計画を行い、また地元との水害時の避難の確認を行い、今後も共に考えていくことを確認した。

(5) 物故者法要（11月10日）

・かすみ会交流施設こもれびにて実施。物故者家族、利用者家族、役職員 合計74名が参加。一人ひとりの命の尊厳を守る法人行事として継続する。

(6) 苦情相談日の継続実施

・苦情を大切にすることを踏まえて、月一回の相談日を設け第三者委員3名の方に交替で対応いただいている。交流施設「こもれび」を利用し、相談者のプライバシーを確保した中で行い、第三者に話を聞いてもらえる場として利用者の方にも寄与している。

(7) 新規事業に関して

・湖東圏域における障がいのある方の地域生活の場を確保するため、グループホームの整備計画について協議書の提出を行った。提出にあたっては、彦根市との事前協議、彦根市からも直接県へ行って強く要望いただいたが、結果として採択には至らなかった。基本的に財政的な厳しさもあるが、入所施設の敷地内の計画ということで土地問題に関する条例改正の厳しさがあり、他事業との優先順位も含め再検討する。

(8) 陶芸活動に係る賢愚窯を利用するの焼成について

・支援体制確保のために、事業計画にて予定した賢愚窯を利用するの焼成が平成30年度は実施できなかった。社会福祉法人としての地域における公益的な取り組みに位置づけられるような地域の社会資源としての利用を検討する。

(9) 人材確保対策

・安定的なサービス提供及びかすみ会に期待されている事業の実現には、人材の確保と育成についての取り組みが最重要課題となっている。

（具体的取組状況）

・求職者用パンフレット・チラシの作成

・ホームページにおける法人・事業所情報と求人情報の発信 ・就職サイトの活用

- ・見学会の実施
- ・福祉人材センター主催職場説明会等への参画
- ・保育実習等施設実習生への採用案内
- ・外国人等の多様な人材の受け入れ準備

(10) 働き方改革への対応準備

- ・働き方改革について職員へ周知するとともに、時間管理の方法について機器の導入も含め検討した。また業務内容や年間計画も見直し、計画年休の取得も含め、次年度対応できるよう準備を行った。

(11) 安全運転に関する事

- ・6月に優秀安全運転事業所として表彰を受けた。

(12) 自立支援協議会等

- ・湖東圏域自立支援協議会行動障害部会では、学校卒業後の日中活動の場の不足が訴えられている。また、地域の高齢障害者の課題についての実態調査をしながら検討されている。
- ・湖東圏域においては、地域生活支援拠点（地域における居住支援の機能強化としての事業で、相談、体験の機会・場、緊急時の受け入れ・対応、専門性、地域の体制づくり等の機能を地域に整備していくもの）について、障害のある人や子供が地域で安心して暮らせるような仕組みを整備するとして、検討会議が開催されている。

3. 具体的事項

(1) 理事会開催（7回）と検討事項

平成30年	5月29日	社会福祉法人かすみ会平成29年度事業報告書について他
平成30年	6月21日	相談案件について
平成30年	7月25日	防犯カメラの管理規定について
平成30年	8月13日	理事会運営の方法、担当理事について他
平成30年	9月27日	つばきはらファクトリー指定就労定着支援事業利用契約書について他
平成30年	12月18日	社会福祉法人かすみ会就業規則変更について他
平成31年	3月13日	社会福祉法人かすみ会平成30年度補正予算について他

(2) 評議員会の開催（2回）と検討事項

平成30年	6月14日	社会福祉法人かすみ会平成29年度事業報告書について他
平成31年	3月22日	社会福祉法人かすみ会監事の選任について他

(3) 監事監査の開催

平成30年	5月18日	平成29年度事業報告・決算報告について
-------	-------	---------------------

(4) 安全衛生委員会の開催（12回）と検討事項

平成30年	4月24日	安全衛生委員会とは労働災害とは他 職場内巡視の実施（以降毎月実施）
平成30年	5月22日	プラス1000歩運動実施にむけて他
平成30年	6月26日	健康診断・ストレスチェックの結果について他
平成30年	7月24日	ラジオ体操 第2の実施に向けて他
平成30年	8月22日	プラス1000歩運動の表彰者の発表と表彰の実施方法の検討他
平成30年	9月25日	プラス1000歩運動の成果と今後の取り組み他
平成30年	10月23日	ストレスチェック評価後の取り組み他
平成30年	11月27日	防災について他
平成30年	12月25日	ワークライフバランスとは他

平成31年 1月30日 インフルエンザ感染防止対策他
平成31年 2月26日 薬と健康について他
平成31年 3月26日 今年度の振り返りと次年度の計画他

(5) 第三者委員会の開催（3回）と検討事項

苦情について、各事業所で討議したあと、委員会を開き、対策の助言をいただいた。

平成30年5月16日、平成30年6月15日、平成30年11月1日

・相談案件について、相談状況の確認他

(6) 虐待防止委員会の開催（2回）と検討事項

虐待防止対策について、各事業所で話し合い、委員会でご意見をいただいた。

平成30年 8月23日 各事業所の虐待防止対策取り組みについて他

平成31年 2月14日 平成31年度虐待防止対策と年間スケジュール他

(7) 事業管理会議の開催（4回）と検討事項

各事業所の責任者が事業の情報・状況・方針の共有を諮る為、話し合いを行なった。

平成30年 4月16日 重点項目実施計画について他

平成30年 8月21日 重点項目のについて他

平成30年10月 9日 虐待防止委員会の確認について他

平成30年12月19日 職員状況及び人材確保について他

障害者支援施設かいぜ寮 事業報告

1. 総括

平成30年度は、54名の定員に対し、51名（男性28名、女性23名）でスタートした。しかし、4名の方が移行等され、1名の方が入所され結果48名の利用になった。定員に対し6名減と運営面では厳しい状態で、市町等と入所調整会議を行ったが、利用者の高齢化・重度化に加え職員体制等により入所の取り組みは1名に留まった。次年度は、地域の利用ニーズに添えるよう、さらなる支援の質の向上と職員体制の整備に努めたい。

健康面においては、医務と連携し健康管理を図っていたが、今年度も1月にインフルエンザの集団感染（利用者22名・職員12名）があった。緊急に対策会議を開き、タミフルの予防投与、感染対策として罹患の疑いのある方の居室の確保、外部利用者へは利用時のお願い文を送付、職員は感染防止策として適湿温の保持、換気、除菌等を徹底し終息を図った。

2. 重点課題に取り組んだ事項

- (1) 利用者理解を深め、虐待防止に取り組み、権利擁護意識の浸透を図る。
 - ・定期的に個別支援計画会議を行い、グループ会議で各利用者担当より月ごとに計画の進捗状況の報告を行い利用者支援に取り組んだ。
 - ・虐待防止ではアンガーマネジメント研修で感情のコントロールについて研修を受け、自身が振り返ることで支援の質の向上や職員間のコミュニケーションが図れた。
- (2) 高齢化（重度化）対策について取り組む。
 - ・浴室での支援が困難な利用者（車椅子等）に対して、湯船にゆっくり浸かって寛いでいただけるよう機械浴の回数を増やし、衛生保持にも取り組んだ。
 - ・利用者の日々の変化に伴い、支援と医務とで転倒リスクの再評価を行った。
- (3) 行動障害のある人の支援について
 - ・日中活動において、利用者個々の特性に合わせて活動場所の構造化を行うなど、行動障害のある利用者が落ち着いて活動に参加できるよう取り組んだ。
 - ・地域利用者に対して、できるだけ多くの利用者が活用できるよう配慮した。

3. 事業・活動報告

- (1) 日中活動
 - ・サロンA班・サロンB班・療育班の3班で班内の一人ひとりに支援が行き届くよう必要に応じた活動を提供した。
 - ・目的に沿った対応が行えるよう、個別のマニュアルの見直しを行った。
- (2) その他
 - ・利用者朝礼
毎週、週の予定の確認や医務連絡、栄養士の食事に関する話、食事リクエストの聞き取りを行った。また、月初めには誕生会を開催した。
 - ・作品展示、出展
稲枝文化祭、ぴかっ to アート展（かいぜ寮から2名の利用者の作品が入選）への展示。
 - ・余暇支援
ドライブ・ビデオ鑑賞、折り紙、塗り絵、お菓子作り等
行事等外出支援

	行 事
4月	お花見 海瀬町祭り(15日)
5月	彦根学園祭(20日)
6月	かすみ会まつり(2日)、県知事選(19日～21日)
10月	知ハン協スポーツフェスティバル(5日)、海瀬町運動会(14日)

	家族の会（20日） 芋ほり 三津町町民フェスタ（21日）
11月	稲枝文化祭（3日）、物故者法要（10日）、文化の集い（13日）
12月	ぴかつ to アート展（6日）、クリスマス会（25日）
1月	初詣（3日）、新年会（8日）

4. 共通の活動

(1) 苦情・事故対策

苦情・事故報告から、再発防止に向けて事故内容を分析し対策を講じた。

苦情受付	1件	・支援内容について
事故報告	4件	・誤投薬2件・打撲、転倒2件

(2) 危機管理（防災・防犯）

①防災・・防災対応マニュアルを基に避難訓練を実施した。また海瀬町の防災訓練にも参加させていただき、地域との連携を図った。

実施日	訓練内容	実施日	訓練内容
5月24日	通報・避難・消火	11月12日	避難（水害）
7月6日	通報・避難・消火（夜間）	2月28日	通報・消火

水害の避難訓練で歩行が不安定な方や車椅子等要介護者リスト（居室図）を作成し早期に避難できる体制とともに、夜間時の避難において敷地内が暗いため常夜灯を整備した。

②防犯・・外部からの不審者防止対策として、防犯灯や防犯カメラを増設し、防犯体制の強化に取り組んだ。

(3) 研修

新人職員研修、中堅職員研修等を受講することで、仕事への心構えや専門知識の習得を図った。また、他施設の見学や職員交流を行い、支援のことや職場のことを互いに話すことで、参考にすることが多く良かったとのことでした。次年度も県内の施設の見学・交流を図ることで職員の資質の向上とやりがいに繋げたい。

虐待防止関係研修

5月14日	虐待防止役職員研修(法人研修)	施設内	全員
12月5日	施設内虐待へのアプローチ	草津市	1名
12月11日	利用者の意思決定支援について考えるつどい	豊郷町	1名
3月2日	障害理解を深めるための講習会	彦根市	1名

人材育成

4月	新人研修	施設内	2名
4月4日	新入社員研修	草津市	1名
5月～10月	階層別ステップI（新人職員）	草津市	2名

専門的研修

6月～2月	強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）	大津市他	4名
9月9日	健康づくりから介護予防の生活機能向上支援	守山市	1名
11月17日	嚥下障害と「誤嚥性肺炎」についての研修	守山市	1名
12月13日	行動障害に関する研修	彦根市	1名
3月6日	栄養ケア研修会	彦根市	1名

情報共有・施設見学等

9月5日	支援スタッフ会議	長浜市	2名
9月12日	管理栄養士情報交換会	甲賀市	1名
10月29日	看護職情報交換会	草津市	1名

11月21日	事務職情報交換会	草津市	1名
--------	----------	-----	----

(4) ボランティア
環境

日付	団体名等	内容
4月29日	天理教江東支部	除草作業
5月12日	家族の会	除草作業
7月21日	みずほグランドゴルフクラブ	除草作業
9月12日	海瀬町新生会	除草作業
10月20日	家族の会	芋掘り
10月30日	愛荘町秦荘日赤奉仕団	除草作業
12月 8日	家族の会	施設内清掃
11月～3月	レイカディア米原校	剪定等環境整備

※家族の会 墓地清掃 (各月)

(5) 実習・研修の受け入れ

平成30年度はびわこ学院大学2名、龍谷短期大学3名、京都文教短期大学4名、華頂短期大学2名の実習を受け入れた。

また、滋賀県総合教育センターの初任者経験者研修(特別支援学校)の現地研修で8名を受け入れた。

5. 医務

(1) 通院・入院状況

		延人数															合計
		内科	外科	精神科	皮膚科	歯科	泌尿器科	整形外科	神経内科	呼吸器科	脳外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	救急外来	その他	
H	入院	1	2	1		2	1				2						9
29	通院	119	32	3	20	85	43	17	3	24	10	10	42	23	4	3	438
H	入院	6					2			2							10
30	通院	145	22	10	22	79	56	13	3	32	10		41	18	11	11	473

高齢化が進む中、体調の変化に重点をおいて観察し、早期に医療へ繋げるようにした。しかし通院治療では対応できない疾患が多く、点滴、投薬、検査、安静療養が必要となり入院治療を受ける利用者がのべ10名(内1名は内科で4回入退院を繰り返された)おられた。入院中の利用者を支える対応も医務では大切な仕事と認識している。通院については1月のインフルエンザ集団感染で内科受診者が増えた。また泌尿器科、呼吸器科疾患も増え定期受診が必要な利用者が数名おられ、中には複数科を定期受診する利用者もおられる。ここでも利用者の高齢化や重度化が影響しているものと考えられる。

(2) 課題とその対応について

高齢化の進むかきぜ寮では、常に医療が必要となる利用者が増えている。そして一度医療に繋がると完全治癒は難しく、長期に治療を受けることになる。どんな治療を受けるのか、患者が選択できる時代ではあるが、利用者自ら選択することはほとんどが困難であるため、家族、後見人の意見が重要になってくる。医務では常に利用者の健康状態を伝え、家族、後見人に現状把握をしてもらい、的確な医療が提供できるよう努めている。そのために有益となる情報や資料を準備することも必要である。さらには、高齢利用者の生活を見直し、残る人生の過ごし方を選択できるようなサービスを調整することも急務と認識している。また、延命処置の有無についても家族の意向を確認しておく必要がある。

医療の必要な利用者が年々増えている現状で、協力医療機関である豊郷病院の存在は大きい。身近に利用者の特性を理解して受け入れてくれる医療機関があることは大変心強く、日々の安心につながる。今後も豊郷病院との連携を大切にしていきたい。

6. 給食

利用者の高齢化・重度化に対応するために、栄養ケアマネジメントを強化し、栄養ケア会議を定期的に行っている。多職種できめ細かく食事摂取状態を把握し、改善点を整理して利用者の健康上の問題点や、食環境についても話し合い、医師のアドバイスをいただきながら改善してきた。また、週に一度利用者朝礼で食育を実施し、利用者からリクエストメニューを聞き献立に反映している。

食事形態

主食/副食	主食		副食				
	おかゆ	軟飯	ペースト食	刻み食	粗刻み食	普通食	割合
男子	1名	1名	2名	2名	6名	17名	37.0%
女子	4名	1名	4名	5名	5名	7名	66.7%

※ 副食の割合とは普通食以外の食事を提供している利用者の割合をいう。

摂取栄養量

	エネルギー (Kcal)	たんぱく質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	塩分量 (g)
基準量	1750	50.0	48.6	600	10.0
かいげ寮平均	1755	70.8	45.8	571	8.9

相談支援事業所かいぜ寮 事業報告

1. 総括

平成30年度より、施設入所利用者へのモニタリング実施期間が1年に1回から半年に1回と見直されたことにより、利用者のご家族や後見人と直接お話する機会を多く持てた。報告書を作る回数も倍になったため、事務量も増加しているが、新規契約を抑えることで対応できた。ただ、新規のケースは増えているのに計画相談支援を受ける事業所や相談支援専門員が増えず、地域のニーズとは逆行しているため、今後も相談支援専門員の不足は湖東地域だけでなく全圏域の課題として継続して挙がっていくと思われる。

かいぜ寮に関しては、3月末現在で介護保険のサービスに移行された方が2名おられ、計画相談支援を終了している。介護保険のサービスへの移行については、事前にサービスを体験したうえでのご本人の意思確認をすることができないため、受け入れ先との情報共有や、ご家族・後見人への情報提供を丁寧に、しっかり行う必要があり、今後もこのようなケースに関わる際は留意していきたい。

2. 重点課題に取り組んだ事項

(1) 他機関と連携しつつ、利用者、家族理解に努め、虐待防止に継続的に取り組む

前年度からの継続ケースが多く、障害当事者が子育てしているケース、子どもに障害(疑い含む)があり、育てにくさを感じるケースとも行政の子育て支援担当課、保健師、障害福祉担当課と情報共有を行っている。モニタリングでの訪問で家族内の様子を聞き取り、ご家族の不安やイライラする気持ちをうかがうことで少しでも安心して子育てがしてもらえよう、サービス利用を含めた相談支援をしていきたい。

(2) 多様な相談に対応できるよう、研修や他業種交流に積極的に参加する

平成31年3月末までの研修、他業種との交流事業への参加状況は以下のとおり。

参加月	内 容
5月	アンガーマネジメント研修(法人内虐待防止研修)
	介護保険と障害福祉のケーススタディミーティング(8月)
6月	相談機関交流会(10, 11, 3月)
8月	厚生労働省障害者虐待防止・権利擁護指導者研修
	高次脳機能障害支援センター研修会
9月	滋賀県発達障害者支援センター公開講座(就労に関して)
10月	地域移行に関する研修会
	児童虐待防止関係者研修会
11月	地域生活支援拠点等の整備促進 必要な機能の強化・充実のためのブロック会議
	社会的協力事業所部会研修会
12月	湖東地域障害者自立支援協議会 行動障害部会研修会
	彦根市子ども・若者支援地域協議会における支援に携わる人材養成のための講習会
	湖東地域障害者自立支援協議会 重度心身障害児者に関する部会研修会
1月	地域の核となる相談支援専門員養成研修事業 モデル研修会
2月	滋賀県の高齢障害者に対する支援の現状と今後を考えるフォーラム
	滋賀のみんなでつくる地域精神保健医療福祉チーム事業研修会
3月	難病支援者研修会
	湖東地域歯科保健推進研修会
	権利擁護研修会

※強度行動障害支援者研修、滋賀県虐待防止・権利擁護研修会にはファシリテーターとして参加。

※他業種交流として、他に「湖東地域こころのケアチーム研究会」(世話人:南彦根クリニック 上ノ山院長)の事例検討会に参加している。

平成30年度 計画相談支援 利用者数内訳

(平成31年3月31日現在)

	かいせ寮利用者	グループホーム 利用者	つばきはら含む 地域利用者	計
彦根市	25	2	64 (13)	91 (13)
豊郷町	3		8 (2)	11 (2)
愛荘町	6	1	32 (19)	39 (19)
甲良町	2		3 (1)	5 (1)
多賀町	0	2	3	5
東近江市	5	1	1	7
近江八幡市	3		1	4
日野町	1			1
京都市	1			1
計	46	6	112 (35)	164 (35)

※ () 内は児童 (再掲)

※就労継続支援B型利用にかかるアセスメント利用者含む

平成30年度 障害者相談支援事業 (市町が定める委託事業) 実績

	彦根市	豊郷町	愛荘町	甲良町	多賀町
障害者	59	7	19	3	2
障害児	8	3	10		
実人員計	67	10	29	3	2
件数	199	45	83	10	12

1. 総括

利用者の状況については、11名（サンコスモ滝井：5名、そよかぜ：6名）の方が利用されている。年齢層も幅広く、加齢による身体状況の変化があり、肥満傾向の方も多い。生活習慣病予防への対応など健康管理において、看護師や医療機関などと連携をとる事が年々増えている。一方で、そよかぜの利用者で一人暮らしを希望されている方がおられることから、家族の協力や理解を得て、法人所有の自立実習棟での体験実習を計画・実施し、一人暮らしへの課題整理を行うことができた。利用者の自立支援や高齢化の対応については、関係機関など地域との連携が求められており、引き続き柔軟な支援体制の構築が必要となっている。

また世話人についても、平均年齢（約70歳）が高くなってきており、業務内容の見直しの他、バックアップ体制など安心して働ける職場環境・体制構築が必要となっている。

2. 重点課題に取り組んだ事項

(1) 利用者理解を深め、虐待防止に取り組み、権利擁護意識の浸透を図る。

法人虐待防止研修に参加して、怒りの感情のコントロール方法を学ぶことができた。世話人会議で個別支援計画を共有・協議しやすいようにモニタリング等の時期を見直した。また、世話人が日ごろ利用者の姿を通して疑問に思う行動に対しては、サービス管理責任者や支援員が、障害の特性をわかりやすく説明するなど学ぶ機会を設けている。支援員は、「障害のある人の自己決定とその支援」という研修に参加したことで、自身の関わり方を振り返る機会となり、改めて支援する側としての利用者の意思決定を支えるという権利擁護意識の向上につながった。

(2) 家庭的で温もりのある暮らしを提供できるようにする。

居室の清掃や整理整頓が苦手な利用者には、過ごしやすいように居室内の模様替えも含めて支援員が計画的に実施した。ホーム周辺の除草作業を随時行ったことで、景観維持にもつながった。食事は世話人の手作りのため利用者個々の健康状態や嗜好に配慮しながら、温かい食事を提供している。また、帰宅時間が合わない時もあるが、食卓を囲み、世話人とのやりとりを楽しみながら家庭的な雰囲気の中で食べることができている。

3. 入居者の状況

(1) 生活

(生活環境)

各居室の清掃・整理整頓は、できる限り利用者本人で行ってもらっている。居室の備品や衣服等の購入や破棄などは、本人や家族と相談しながら対応している。

(保健衛生)

起床時に体温・血圧（特定の利用者のみ）・体重測定（月1回）を行い、毎日の体調の把握に努めている。体調不良時には看護師と相談し、必要に応じて医療機関を受診している。利用者によっては通院に同行し、連絡ノートを利用するなど家族と連携をとっている。

(食事)

栄養士が作成している献立を参考に、利用者の嗜好や健康状態に配慮して提供している。利用者の半数以上が肥満傾向にあり、生活習慣病の予防など健康管理が必要になっており、食事の提供方法の検討が必要となってきている。

(余暇)

利用者の年齢や趣向の違いもあり、両ホームで合同での（イベント等など）余暇活動への参加は難しくなっているが、個々の利用者の状況に合わせ、相談員とも連携をとりながら、移動支援など他の事業所のサービスを利用できるよう調整し、支援員と相談して定期的に外出を計画して実施し対応。

月日	内容	場所	参加者	
			サンコスモ滝井	そよかぜ
5月 3日	喫茶外出	ユトリ珈琲	3	0
5月20日	彦根学園祭	彦根学園	4	4
6月 2日	かすみ会まつり	かすみ会	5	6
8月13日	喫茶外出	ユトリ珈琲	4	2
12月20日	クリスマス会	各ホーム	5	6
1月 4日	初詣	多賀大社	2	0

(2) 社会参加について

月日	内容	場所	参加者	
			サンコスモ滝井	そよかぜ
6月24日	県知事選挙	稲枝支所	2	1
9月 4日	厚生労働大臣表彰	東京	1	0
10月21日	三津町民フェスタ	草の根広場	4	4
11月10日	かすみ会物故者法要	こもれび	4	2

(3) 地域生活、職場における問題への対応について

作業所との対応は、日中活動の様子や帰省時の様子など連絡ノートを活用して、情報共有を行っている。また、企業就労している利用者は、会社と連絡を取り合い、本人の状態を伝え、対応にあたっている。

(4) 相談

利用者から職場やホーム内での人間関係、外出予定、家庭における困り事などの相談は多岐にわたる。普段の関わりの中で、相談を受けた世話人は、支援員、サービス管理責任者に口頭もしくは業務日誌等を通して報告をし、共有するようにしている。

(5) 個別支援計画

今年度から利用者個々の受給者証の更新の時期に合わせて、個別支援計画の見直しを行っている。また、サービス等利用計画との整合性や利用者のニーズに基づいた支援内容となるよう様式の見直しを行った。

(6) 家族・後見人等との連携

利用者ごとに連絡ノートを準備し、帰省時には、ホームでの様子などを記入し持ち帰ってもらい、帰省中の様子を記入してもらい連携をとっている。また個別支援計画のモニタリング等に合わせ個別懇談を実施し、家族の意向や状況など確認する機会を定期的に設けている。

4. 世話人について

毎月、ホームごとに世話人会議を開催し、利用者に関することや業務に関することなど情報や課題の共有をし、協議する機会を設けている。

5. 障害者への理解促進のための見学、学習機会の提供

稲枝東小学校や相談支援事業所などの見学依頼があり、対応した。

6. 防災・防犯について

防災対応マニュアルを基に、避難訓練（火災訓練2回。水害訓練1回）を計3回実施した。避難の際、歩行が不安定な方には車いすを使用して安全に避難できるようにした。

1. 総括

(1) 就労移行支援事業

就労アセスメントは、9名の利用があり、圏域での期待は非常に高い状況にある。就労移行事業については利用者が少ない状況にあった、アセスメントを通しての利用者や、広報活動を行い、一人でも多く利用者が増えるようにしていきたい。

①重点課題に取り組んだ事項

(i) 一人でも多くの方が、一般就労できるように支援する。

毎週水曜日に就労に向けて勉強会を行った。SCREEN ホールディングス株式会社彦根事業所パルテ運営部や株式会社ワッツ西日本販売滋賀倉庫作業所に見学を行った。また、ワッツ西日本販売では実習も行った。

(結果) 就労には結びつかなかったが、企業就労の現状を理解していただけた。

(2) 就労継続支援B型事業

就労移行支援事業と就労定着支援事業の多機能で行っているため、利用者を適材適所に配置し、やる気を持ってもらえるように支援することで、品質が高く納期もしっかりと守ることができ、今年度も工賃向上が図れた。また、1名の方を就労につなげることができた。

①重点課題に取り組んだ事項

(i) 利用者がやりがいを持って仕事ができるように支援する。

JSSJ 株式会社の作業について、障害特性や能力に合わせて写真を使ったわかりやすい作業の手順書を作成した。

(結果) 分かり易い手順書を作成し、利用者が早く確実に覚えられ作業効率の改善ができた。

(ii) 一般就労に必要な力をつけられるように支援する。

SCREEN ホールディングス株式会社彦根事業所パルテ課を見学し、障害者就職面接会に見学に行くなどの取り組みを行った。

利用者の職業準備支援や作業能力の向上のため、研修を行い、アビリンピック滋賀に参加した。

社会就労事業振興センターの介護職員初任者研修に利用者1名が参加し、資格取得をした。

(結果)

1名の利用者が就職し、就労後のサポートを行っている。また、介護初任者研修を受けた利用者は、介護の勉強をすることで前向きに介護現場の就労を目指している。

(iii) 工賃向上を図る。

作業効率や品質の向上を図れるように工夫をすることで、JSSJ 株式会社や株式会社くすかみのタオルなど請負作業が継続して好調であった。

(結果)

他の作業を減らしたが、就労収入はほとんど減少せず作業内容が減ったことで、利用者も覚える作業が少なくなり、作業の精度が高まった。

(iv) 自主製品の販売が促進するように関係機関と連携を図る。

社会就労事業振興センターの製菓製パン研究会に参加した。

(結果)

食品については、今後 HACCP (危害分析重要管理) の考え方を取り入れた衛生管理が徹底され各作業所と情報共有することができた。販売促進も大切であるが、衛生環境を整える必要がある。

(3) 就労定着支援事業

10月1日より、就労定着支援事業を開始した。先に始めている就労支援センターあっぷでーとの見学に行き、取り組み状況を学ぶなどしながら取り組んだ。

①重点課題に取り組んだ事項

個別支援計画を作成し面談し、利用者が安定して就労できるよう、月1回会社訪問を行い支援する。
(結果) 不安なことや悩みを相談しながら、利用者は安定して仕事を続けている。

(4) 共通

①人材育成を行い、よりよい支援を行う。

(i) よりよい支援を行うことで、虐待を防止する。

(ii) 障害に対する専門性や理解を深める。

- ・個別支援計画の作成時にKJ法を使って、本人の良いところを支援者で共有した。
- ・就労アセスメントの研修やジョブコーチの研修に参加した。
- ・施設内研修で講師を呼び、精神障がい者の就労支援について学習した。
- ・精神障害の理解を深めるために研修に参加した。
- ・就労支援センターあっぷでーと、TOCOカンパニー等の見学を行った。また、県の虐待防止研修や自己決定支援の研修にも参加した。

(結果)

様々な研修や見学を行い、復命会で、障害理解や支援方法について学ぶことができた。個別支援計画についてしっかりと個別ケースについて話し合うことで、利用者理解を深めることができた。虐待防止研修や自己決定支援について基本的な考え方を理解し、共有が図れた。

②安全に利用者の送迎や荷物の運搬、通勤等を行うため、交通安全の研修や運転確認を行う。

教習所で適性検査と運転能力診断や、安全運転管理者講習会に参加し安全運転の徹底を図った。

(結果)

教習所での運転の診断を受け自分の運転について見直す良い機会になった。しかし、公用車による物損事故があり、さらなる安全運転の意識の徹底を図る必要がある。

2. 就労アセスメント状況

甲良養護学校 (5名)、愛知高等養護学校 (1名)、長浜北星高等養護学校 (1名) 在宅 (1名)

その他 (1名) 計9名

3. 就労に向けての支援

(1) 就労の状況

月 日	場 所	利用者数
4月16日	滋賀県立甲良養護学校	1名

フォローアップ: 株式会社SCREEN ビジネスエキスパート・日本電気硝子ユニバーサポート・パナソニック ファクトリーパートナーズ・株式会社ワッツオースリー滋賀倉庫作業所・パナソニックアソシエイツ滋賀・彦根市社会福祉協議会南デイサービス

(2) 利用者研修

月 日	内 容	参 加
6月13日	健康に関する研修会	19名
6月25日	食と食品衛生研修会	18名
8月16日	交通安全研修 講師 滋賀県交通安全協会	20名
8月17日	マナーに関する研修会 講師 働き暮らしコトー支援センター	20名

10月20日	アビリンピック滋賀 オフィスアシスタント初級	ポリテクセンター滋賀	1名
11月27日	オフィスアシスタント	ポリテクカレッジ滋賀	3名
2月20日	お掃除研修会 講師	ダスキン野田山支店	20名

4. 就労支援事業活動について

(1) 委託業務（請負）

請負先		内容
下請け	弘陽工業株式会社	ボルト組み立て・袋詰め・検品
	株式会社くすかみ	タオル箱詰め・検品 検針
	JSSJ株式会社	シートベルトの部品組み立て
	株式会社 トコロ製作所	ナットの切粉取り・検品
	水谷醤油醸造場	醤油フタ閉め・検品
製造	稲枝商工会	なちやつぶ製造
メンテナンス	聖泉大学	清掃作業
	かいぜ寮	清掃作業
その他	歯ブラシ定期交換サービス	歯ブラシの梱包・名づけ・販売（代理店：ステップアップ21）
	古紙回収	ダンボール回収（かいぜ寮 聖泉大学など）
	農業組合法人ファームかいぜ	苗箱洗い

(2) 自主製品販売

①常設販売 和つふる・・・美浜館・あいしょう館

②自主製品販売箇所

彦根市・彦根障害者センター・彦根保健福祉センター・甲良町役場・豊郷町役場・愛荘町役場・稲枝支所・彦根市社協・豊郷町社協・くすのきセンター・甲良養護学校・愛知高等養護学校・SCREEN ホールディングス・夏原工業株式会社・トコロ製作所・JSSJ株式会社・水谷醤油醸造場・ダスキン野田山支店・ヤクルト稲枝センター・滋賀給食センター・工房ふれっしゅ・地域生活支援センターまな・たんぼぼ作業所・かいぜ寮などに訪問し記念日販売を行った。

5. 苦情処理・事故について

事故報告	1件	公用車による物損事故
------	----	------------

6. 行事

日時	内容	利用者参加
4月10日	お花見 場所 ヴォーノ・イタリア 庄堺公園	20名
5月9日	利用者旅行 場所 セントレア空港	17名
10月8日	バーベキュー大会	19名
12月24日	クリスマス会・忘年会	21名
1月4日	初詣 場所 多賀大社	19名

7. 避難訓練

実施日	訓練内容	参加状況	
		利用者	職員
5月28日	消火・通報・避難	20名	10名
6月18日	水害訓練	20名	7名
11月16日	消火・通報・避難	19名	9名